



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第62号

2013年3月7日

平成25年度年次総会概要決まる 6/1・2に伊勢で

## 見学会：神路山をたっぷりと シンポジウム：遷宮の意義と意味を多方面から議論

今年の年次総会・研究発表会・シンポジウムを6月2日(日)に皇學館大學(伊勢市)で開催する。総会後のシンポジウムでは、20年ごとの遷宮を支えてきた神宮林について、長年、神宮林の育成に関わってこられた木村政生氏(元神宮司廳営林部長、神宮境内地・自然保護委員会委員)の基調講演の後、パネルディスカッションでは、遷宮が日本文化に与えてきた影響などについて、神宮司廳からパネリストを招いて論議を深める。

総会に先立つ1日(土)の見学会では、今回の遷宮を期に創設された、社殿造営技術などを展示する「せんぐう館」と、普段は入ることのできない神路山を木村氏の説明で見学する。

6月1日(土) 見学会：外宮せんぐう館と神路山

10:30	外宮表参道大灯籠前集合
10:30~12:00	外宮自由参拝とせんぐう館見学
12:00~13:30	専用バスで内宮に移動後、昼食
13:30~17:00	神路山見学 説明：木村政生氏

6月2日(日)

9:00~9:40	神宮正式参拝 ※ 背広・ネクタイ着用のこと 要申込み
10:00~12:30	年次総会・研究発表会
13:30~17:00	シンポジウム「伊勢神宮と神宮林」 基調講演(木村政生氏)とパネルディスカッション
17:00~18:30	懇親会

## 2年間の震災被災地社叢復興事業を総括

シンポジウムを開催 3/2國學院大學で

社叢学会では、東日本大震災発生直後より、被災地における社叢復興に向けて様々な活動を展開してきたが、このほど震災から2カ年を迎えるのを前に、これまでの活動を報告し、今後の方向を探るシンポジウムを3月2日(土)に國學院大學で開催した。

シンポジウム「災害と社叢文化」では、菌田稔副理事長がコーディネータを務め、前迫ゆ

り・大阪産業大学教授が社叢現況調査について、糸谷正俊理事が被災直後に社叢が果たした役割を聞いたアンケート調査を、茂木栄理事が三陸山田祭の復興について報告。さらに今後の復興に向けて、森本幸裕理事が災害に強い地域再生に向けて提言した。なお当日の速報は、「鎮守の森だより」次号に、詳細は会誌『社叢学研究』12号(2014年3月刊)に掲載する。



## 水度神社参道林調査報告

講 師：菅沼孝之(社叢学会副理事長・元奈良女子大学教授)  
糸谷正俊(社叢学会理事・総合計画機構相談役)

社叢学会では、水度神社(京都府城陽市)関係者より依頼を受け、参道樹林について現状を調査し、今後の保全管理の対策を確立する基礎資料を作成した。

約0.7kmの神社有地内参道林で樹木調査と参道空間問題点抽出調査を実施。樹木調査ではシュロ・ナンテンを除く高さ2m以上の樹木およそ460本を対象に、樹種、樹高、胸高直径等を記録、参道空間問題点抽出調査では、市道横断危険箇所、ゴミ散乱箇所、電線との競合箇所等の景観上の問題箇所、死角場所、その他について調査し、1/500地図上に表記した。

**参道空間問題点抽出調査結果** 全体を6区分に分けてそれぞれの問題点を指摘した。

(1)一の鳥居のある交差点からJR踏切まで：参道林の入り口であると同時に「緑の象徴軸散策道」入り口部でもあることから、緑の象徴軸説明のほか、名木の解説板があるが、特に「夜又ばあさんのムクノキ」については設置場所がわかりにくい。注意喚起看板が目立ち、利用マナーの悪さがうかがわれる。

信号機のある交差点は南北自動車交通量が多く、横断歩道は信号待ちなどの歩行者の安全性が確保されていない。また表参道の表示に従い一の鳥居をくぐっても、参道動線がとぎれており、歩行者は戻って信号交差点を渡るか、市道を横断して歩道空間に移動するしかなく危険を感じる。散策道入り口にベンチ2基があり、休憩広場仕様になっているが、通行量も多く落ち着かない。木デッキ仕様の参道歩道は歩きやすいが、自転車交通量が多く、歩行者が危険である。市道の北側の参道は樹林帯が狭く、駐車場侵入口、マンション入口などで緑量が少ない。

(2)JR踏切から白鳥幼稚園まえ横断歩道まで：踏切を越えると店舗の宣伝看板が急増し、デザイン形状等が不揃いで見苦しい。市と連携して屋外広告物の一定程度の規制も必要ではないか。

JR城陽駅とつながる横断歩道の両端は歩行者溜まり空間がなく、歩きにくく危険。参道樹林帯がところどころ裸地になっており、市道を横切る歩行者が多いことがわかる。飛び出し防止のための対策が必要である。市道北側は白鳥幼稚園が近づくと側道がなくなるため、参道植栽帯や排水路溝蓋が歩行者通路空間となっている。歩行者の横断対策としては、ヒマラヤスギ等の植樹帯に花壇を設置するなどにより、歩行者安全対策の充実が求められる。

(3)白鳥幼稚園まえ横断歩道からナザレン教会交差点まで：市道北側は駐車空間が多く、樹木は少ない。植栽美化が必要である。市道南側は、はじめ60mほどは比較的明るい散策道であるが、途中から幅員が狭く、樹木が多いため暗い散策道空間となる。

(4)ナザレン教会交差点から嵯峨豆腐三忠看板のある交差点まで：市道南北に参道樹林帯があり、緑の濃

い空間である。市道南側の散策道は、鬱蒼として暗く、見通しも悪い。特に民地側に目隠し塀がある区間は、暗くて圧迫感がある。市道北側の参道林空間は一部の月極駐車場以外は藪状態で、手入れが必要。

(5)嵯峨豆腐三忠看板のある交差点からバス停近くの横断歩道まで：市道南側の参道樹林帯幅員は10mで林内は整備されている。クスノキの植栽箇所もある。市道南側には側道があり、側道際にゴミ置き場、自治会消火器設置箇所等があり、一部駐車場化した場所もあった。土留め杭が打ってある場所もあり、林地から道路への土砂流出も危惧された。

南側の樹林帯に沿って枝葉が茂って電線を包み込んでおり、強風時などには樹林管理が大切になってくるだろう。市道北側の参道林の空間は裸地化し、駐車場となっている箇所が多い。樹林もそこそこ残されているが全体に整然とせず、雑ばくな感じがする。

バス停近くの交差点は交通量も多く、中高生グループが車道を歩いて帰宅する例も多いようであり、交差点等での注意喚起がより一層必要と思われる。

(6)バス停近くの横断歩道から階段参道下の水路まで：神社参詣駐車場と緑の象徴軸散策道から神社参道に行くには市道横断が必要となるが、横断歩道がなく、また変形の交差点であることや市道がカーブして見通しが利かないこともあって道路横断に危険を強く感じる。高齢者や、七五三などの際には子供連れの人参拝も多いため、道路を横断する歩行者対策が必要である。

交差点周辺の注意喚起看板が多いが、乱雑であり、整理が必要である。一部電線と参道樹林が競合しているところがある。

### 問題点解決の方向について

城陽市緑の象徴軸散策道らしい安全で快適な緑地空間を形成すること、延喜式内神社にふさわしい参道樹林空間を保全育成することのため、市と連携しながら、交通安全対策、広告物対策、利用マナーの向上、環境美化、土地利用の整序等を進めることが必要である。

神社側が取り組めることには率先して取り組み、また、市に取り組んでもらう事項には市への要望を出すことや、周辺自治会等と連携して陳情すること等により解決を図ることが望まれる。

特に通学児童や一般歩行者等の交通弱者にとって、参道空間の現状は、①歩道の自転車通過量が多い ②参道林からの枯れ枝等の落下がある ③樹の下枝が目や顔に当たる ④強風時等に腐食の進行した樹木の倒木の危険性がある ⑤横断歩道が少ない、等の危険要因が多く列挙されるため、早急な対策が必要である。

神社側の取組みの一つに、注意喚起の看板、警告板、案内板等の刷新が考えられないか。デザイン的に優れ、劣化しにくい素材を使って、美しい景観形成に資する看板類の設置が必要ではないか。

樹木調査結果

毎木調査により木本類計57種456本の個体を数えた。個体数での最多出現樹種はコジイ、スダジイのシイ類で、計59本あった。また、これらについて道路へ



水度神社参道

の枝のはみ出しの度合いを調べ、地図に落とし込んだ。中には7mものはみ出しが認められた。

大きく見ると参道樹林はシイ類を主体とし、これに常緑のアラカシやナナミノキ、また落葉樹のエノキやケヤキが生育して、緑深い林相を示している。さらに、造園樹として用いられるサクラ類、ヒマラヤスギ、クスノキも混生している。かつて、京都の自然200選に選定された当時の「松の古木の並木」の面影は現在のところ全くと言ってよいほど見られない。現存するマツはすべてクロマツで、10本を数えるに過ぎず、目立つ存在ではなくなっている。

**樹林の特性** 車道の南側の樹林帯と北側の樹林帯に分け、さらに参道の中央付近に位置する北東から南西へ流れる水路を境にして、東側の傾斜上方域と西側の傾斜下方域に大きく四分した。

一の鳥居から水路までの下方域には、エノキ、ケヤキ、ムクノキなどのニレ科の高木を主体とした樹木が主体をなしているのに対して、水路から二の鳥居までの上方域には、シイ類を中心にニレ科の樹木やスギ・ヒノキを混じえたより鬱蒼とした森林の景観を醸し出している。この違いは下方域の白鳥幼稚園東側の南北道路から東方向に50mほどは参道の北側に樹木がほとんどない区域があることや、JR線踏切から白鳥幼稚園前辺りまではヒマラヤスギが列植されていることなど、栽植された樹木によって形成された景観に左右されていると思われる。

西傾斜下方域の樹木は35種164本で、主な樹木はサクラ類27本、ヒマラヤスギ16本、エノキ15本、ウバメガシ11本、クロマツ10本である。幹面積の累計ではエノキ、ヒマラヤスギ、クヌギ、アラカシ、クスノキの順に並ぶ。傾斜上方域には44種292本の立木があり、シイ59本、アラカシ37本、ナナミノキ24本、エノキ21本、ヤブツバキ16本で、幹面積累計はシイ、ナナミノキ、アラカシ、エノキ、ケヤキの順に並ぶ。これをそれぞれの生育特性から考えると、下段域では植栽由来の樹種が、上段域では自然に芽生えた樹種が多く、下段域では植栽によらなければ新たな個体を実生から育てるのは難しいという地形・土壌的な背景を示していると思われる。

**参道樹林の育成について** 参道樹林にはいくつかの機能がある。参道樹林が地域の自然の極相である場合には、最も自然豊かな緑として見る事ができる。多様な種類の植物が生育するだけではなく、野鳥や昆虫、小動物の生息、あるいは移動ルートでもある。また、地域の住環境の面からは、心地よい日陰やヒートアイランド現象の緩和、粉塵の吸着といった機能が見えてくる。一方で、落葉や落枝による被害や害虫の発生源となるなどマイナス面も否定できない。

参道樹林はその様々な機能を考慮し、近隣住民や通行する人々との合意があって始めて、次の世代に引き継がれていく。合意形成のためには、参道樹林の利害関係者が参道林のイメージを共有するための取り組みが求められる。どのような種類の樹木が、どこにどれだけ生えているのかを知り、関係者が揃って樹林を楽しむことから参道林の将来の姿の検討が始まると言えるのではないだろうか。

**参道樹林としての樹種特性** 参道樹林の目標樹林型を考えるうえで、歴史的にも生態的にも違和感のない、かつ神社の参道樹林を構成する樹種として相応しいと考えられるいくつかの代表的な樹種の特色を知ることが大切である。さらに歴史や植物生態、景観、宗教文化、樹木管理の難易度などの視点を踏まえる必要もある。以上の観点からこの地域には、イチイガシ、シラカシにヤブツバキを交じえて植栽するとよいと思われる。

----- 研究発表・シンポジウムと関連行事参加申込書 -----

FAX：075-212-2916

\* ご希望の行事の( ) 欄に○をおつけ下さい。同伴者がいらっしゃる場合は人数をお書き下さい。

- ( ) せんぐう館・神路山見学会 : 同伴 人  
(正会員・賛助会員・協力会員：7,000円 市民会員・同伴者：8,000円)
- ( ) 正式参拝 : 同伴 人
- ( ) 研究発表およびシンポジウム(非会員は1人500円) : 同伴 人

会員番号

お名前

電話番号・Mailアドレス等当日連絡先



## ニホンシカの高密度化による生態系への影響

講師：大橋春香(東京農工大学 産官学連携研究員)

近年、ニホンジカの高密度化による生態系への深刻な影響が全国各地から報告されている。青々と草に覆われていた山が、いまでは岩肌が見えるほどに食い尽くされた例もあり、国土保全、生物多様性保全の観点からも緊急対策が課題となっているという。

### 1. ニホンジカはどんな動物か

言うまでもなくシカは草食である。一頭当たり一日に3~7畳分相当面積の植物を食べ続ける。寿命はあごの骨のところの歯の年輪部分から算出し、野生のオスで最高14歳、メスは18歳程で、平均するとオスで4~6歳、メスは6~8歳である。意外と長生きで、ひたすら草・植物を食べ続ける。明確な好き嫌いがあり、好きな草だけを食べ、嫌いな草は食べ残す。ちなみにオスの角は、毎年生え変わるごとに分岐点がひとつずつ、4つまで増える。一夫多妻制のため、オス同士はメスを獲得するために角を使って格闘する。メスはだいたい2歳から出産し、1年に一頭ごと、毎年産むことができる。北海道での調査では、年15~20%ずつ個体数が増えていることがわかった。日本の人口増加率は約0.2%、世界では1.2%であるから、ニホンジカの近年の繁殖力の凄まじさがわかる。1㎡あたりに100頭ほどまでは増加するとされており、しかし、それ以上になるとクラッシュし、減少傾向となる。クラッシュしないからと言っても、密度が高くなることは決してシカにとって良い環境とは言えない。ニホンジカの高密度化に伴う植生への影響は、生息密度に応じて段階的に進行していく。

### 2. 何故ニホンジカは増えすぎてしまったのか

シカの好物の植物は高さが抑えられ、花が咲かなくなっていく。林の中できれいに下草が刈られているようにみえるのは、手入れが行き届いているからではない。シカの届く範囲の草が食べ尽くされてしまったからである。シカの生息密度が上がると、シカの好む植物が消失し、食物が不足するため、子どもが成長しにくくなる。やがて親ジカは子どもを産

まなくなる。ニホンジカ増加の理由はいくつかあるが、一つは狩猟者の減少と高齢化である。現在の狩猟者20万人(かつての半数ほど)のうち、半数以上は高齢者であり、今後も減少の一途を辿ると予想されている。さらに地球温暖化によるシカの生存率の上昇、森林の伐採、そして天敵ニホンオオカミの絶滅。つまりは人間の社会変化がシカ増加の要因となっていると言える。果たしてニホンジカは悪者なのだろうか。

### 3. 保護から求められる排除へ

戦後の乱獲から1970年代に絶滅の危機にみまわれたニホンジカは、メスを中心に保護政策がとられ、当時ニホンジカは自然保護のシンボルであった。そして現在、保護が行き過ぎ、増えすぎてしまった。都市化の進展と開発の中で餌場は失われ、シカは餌を求め、山の上へと追いやられていった。シカは山を荒らし林業にも支障をきたした。シカの食べない植物は増殖し、間接的には鳥類、小型哺乳類、土壌動物など様々な生物群に影響する。シカの好む植物が減少するに比例して、それまで食べなかった植物を食べるようになり、樹皮はぎによる枯死木が増大し、森林の更新阻害や階層構造の変化が起こり、表土・土壌流出など基盤崩壊にも繋がっている。

アジアでは人気のニホンジカの肉だが、日本ではあまり食べられていない。天敵であるオオカミを放そうという動きもあるが、一度絶滅した生き物を再投入することは自然のバランスを崩すリスクが高いことは容易に考えられる。シカの数を減らしたとしても、必ずしもこれまでの植生が元に戻るとは限らない。一度壊してしまった生態系のバランスを人為的に取り戻すことは難しい。事態は深刻である。現在、対策は自治体ごとに任されており、任意計画のためバラツキがある。連携等の動きは見られるが、各地でニホンジカの数は増え続けている。

(文責・渡邊節子)

## 次回予告【第55回関東定例研究会】

- ◆日 時：4月27日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大学・渋谷キャンパス120周年記念1号館3階1304教室  
(東京都渋谷区東4-10-28)
- ◆テーマ：社叢をめぐる法律問題と解決法
- ◆話題提供：塩谷 崇之(弁護士・社叢学会理事)



# 第6回社叢インストラクター資格認定試験問題



2013年2月24日 伏見稲荷大社にて実施

**筆記試験Ⅰ【10:00～11:00】**：下記のうち1題を選択し、指定の字数で記述（課題は事前に提示）配点＝100

論文1. あなたが住んでいるまちの社叢、あるいは近隣の町の社叢を1か所あげて、その現状、問題点を簡潔に記し、今後、その問題点の解決に向けて、社叢の専門家として取り組むべき対応策をあわせて1,500字程度で記述しなさい。

＜社叢の名称＞ ＜所在地＞ ＜現状と問題点＞ ＜取り組むべき対応策＞

論文2. 南北に長い日本には様々な様相の社叢があるが、その森林のタイプを決める要因は何かについて1,500字程度で記述しなさい。

**筆記試験Ⅱ【11:10～12:10】** 配点=100

問題1 照葉樹林を構成する種類として判断できるものには◎を、生育場所によってはいずれ交代する種類、遷移の途中相と判断できるものには○を、本来の生育環境ではないと思う種類には×を、移入（外来）種には△を（ ）内に記入しなさい。配点＝20

ミズナラ	( )	クヌギ	( )	シラカシ	( )
カゴノキ	( )	タブノキ	( )	カナメモチ	( )
ナンキンハゼ	( )	ケヤキ	( )	マンリョウ	( )
ブナノキ	( )	アカマツ	( )	ベニシダ	( )
ジャノヒゲ	( )	アベマキ	( )	ヤブツバキ	( )
テイカカズラ	( )	スダシイ	( )	イチョウ	( )
ウバメガシ	( )	タラヨウ	( )		

問題2 以下の（ ）に適当な語を下の欄に記入しなさい。配点＝20

神社といえば、社の建物を考えやすいが、本殿ができるのは、今のところ確かな例は、(①)世紀にさかのぼる。

奈良県の(②)神社にはいわゆる本殿が今もない。では何が神の鎮まる本体かというと、三輪山が神の鎮まる場所で、これを神体山と言う。古典の用語では、(③)と言う。これを登って行くと、聖なる岩石の群(④)があり、聖なる石で、聖なる場所(⑤)を囲い、その中に神の降臨をあおぐ。また、神の宿る聖なる樹木を(⑥)といい、聖なる樹木にも神は宿ると信じてきた。

『万葉集』では「やしろ」という言葉に、(⑦)・(⑧)という漢字をあてているが、たとえば、『万葉集』の歌をみると、

“木綿かけて 齋ふこの社越えるべく思ほゆるかも恋の繁きに”

というように、「社」という字を、(⑨)というやまとことばにあてている。聖なる鎮守の森が、すなわち「神社」なのだ。

また、『出雲国風土記』の秋鹿郡女心高野の条には「上の頭(ほとり)に(⑩)あり、是はすなわち神社なり」と明記している。

問題3 森林の構造について、以下の用語の意味を記し、それについて知るところを簡単に記述しなさい。配点＝30

- 1) 森林樹木の断面積合計
- 2) 光合成を行う樹木の葉の表面積指数（葉面積指数）
- 3) 樹木のもつ葉量（着葉量）
- 4) 落葉の平均分解率
- 5) 林内の相対照度

問題4 東日本大震災で果たした神社・社叢の役割に関して、社叢学会は神社に対するアンケート・ヒアリング調査を実施し、多様な役割を有していることがわかりました。どのような役割を果たしたか、考えられることを記述しなさい。配点＝15

問題5 相応な大きさの照葉樹林からなる社叢が発達している田園地帯に鎮座する神社に参詣するために、また回り道をさけて反対側に抜けるための短絡する踏みしめた通路ができてしまった。そこで、この照葉樹林の森にできた穴を防ぎ、通路に植物を使って回復させる方法を、2以降、3段階程度で考えなさい。配点＝15

1. 先ず、ここは通路ではないので、植物による修復をするという意味の表示を建て、通行止めにする

\* 口頭試問では受験の動機やこれまでの経験を聞いたほか、約10種の樹木の同定を求められた。

## 社叢インストラクター 第6回資格認定試験を実施

第6回社叢インストラクター資格認定試験を2月24日(日)に伏見稲荷大社で実施した。今年は社叢インストラクター養成セミナー修了者3名が資格に挑んだ(問題は5面に掲載)。終了後、試験委員が合否判定原案を作成し、3月15日開催の理事会に諮問する。合格者には年次総会で理事長より認定証が手渡される。

当日の試験委員：菅沼孝之副理事長、渡辺弘之理事、糸谷正俊理事

## 事務局から

- 年次総会は別記の通りです。「世界に稀なる聖地」神宮は20年に一度のご遷宮の年を迎え、厳粛な中にもそここに華やぎが感じられます。シンポジウムでは1,200年年以上にわたって営々と続けられてきたご遷宮を支えてきた神宮林について聞き、さらにご遷宮が日本の芸術や森林文化にどのような影響を与えてきたかを、この大事業に携わってこられた神宮司廳のご担当者を交えて議論して参ります。また、前日の見学会では、普段立ち入りが許されない神路山に足を踏み入れ、ご用材育成の現場などを、こちらも専門家の説明を聞きながらたっぷり時間をかけて見学いたし

ます。どちらもまたとない機会です。多数のご参加をお待ちいたしております。

なお、正式参拝につきましては服装の制限があります。ご注意ください。

また、研究発表も引き続き募集しています。こちらも奮ってご応募ください。

- 会誌『社叢研究』第11号を同封いたしました。書評で取り上げた本は、手に取っていただきたいものばかりです。ぜひご一読下さい。

## 編集後記

とある日のオトコ3人の会話。

某理事(ボルネオに2回連続で自然観察教室を引率)：孫に「おじいちゃんは遊び呆けてる」って言われたから、「え、そんな言葉どこで習ったん？」って聞いたたら、「おばあちゃん！」て。残り二人：うおっ…。

さらに3週間ほど後。

某理事(ボルネオ後、解凍と称して沖縄へ)：ヨメはんが「今度はどこへ行くの？」っていうから「\*\*\*」と言うたら、「あ、っそ」って。この二言に万感の思いが、ね。。。

残り二人：……。そやけど、うるさいヤツがおらんほうがええんとちゃうんかなあ。。。

マゴの世話をサボっての“おらん”はあかんやろ！ うるさいとわかってるんなら態度を改めなさい！ ここは奥さまに1票！

(藤岡 郁)

## 次回予告【第55回関西定例研究会】

- ◆日 時：3月30日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：伏見稲荷大社儀式殿(伏見区藪之内町68)
- ◆テ マ：森林とは、森と林どこがちがう？
- ◆話題提供：渡辺弘之(社叢学会理事・京都大学名誉教授)
- ◆コメンテータ：前迫ゆり(大阪産業大学教授・社叢インストラクター)

## 研究発表者募集！

テ マ：社叢に関する理論的研究

社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究

発表時間：20分(報告15分+討論5分)

応募締切：2013年3月末日必着

応募要領：住所・氏名を明記の上、発表内容を300~400字にまとめ、E-Mail、FAX、郵便で本部事務局に送付

\* 応募者多数の場合は担当理事で協議し、4月中旬までに諾否をお知らせいたします。

\* 発表者は、発表当日に配布する資料を4月末までに本部事務局にお送り下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916  
URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内  
TEL080-1514-5032 E-Mail [shasougakkai@hotmail.com](mailto:shasougakkai@hotmail.com)

(当面、このアドレスでお願いいたします)